

やまがた木育推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	環境エネルギー部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ6 再生可能エネルギーによる産業振興と地域活性化、国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	施策	施策2 国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	目的	県土の7割を占める豊かな森林資源や湧水等の水資源など、県民にとって貴重な財産である自然環境を守りながら、地域の産業や暮らしに活かし、次世代につないでいく。						
	目標指標(R2)	自然公園利用者数	14,000千人					
	策定時の実績	11,255千人(H27)	現状	11,300千人(H28)	主要事業	環境地域づくりを担う人づくり		
事業名	やまがた木育推進事業費	担当課・担当	みどり自然課 みどり県民活動推進担当					
事業開始年度	平成30年度	事業終了(予定)年度	令和3年度					
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直す活動を「やまがた木育」として、やまがた木育推進方針に基づき、人生のあらゆる場面を通じて、乳幼児から高齢者までの全ての世代で取り組んでいく。そして、県民が、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かすことにつなげていく。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	1 やまがた木育推進委員会の開催 2 子どもの成長に合わせたやまがた木育の推進 ① 未就学児対象：「木育絵本」の開発 ② 小学生低学年対象：「木育ブック」「木育クラフト」の開発 ③ 小学生高学年対象：副教材「やまがたの森林」・「森のたんけん手帳」の提供 3 県民みんなでやまがた木育の推進(新規) 県民に対して、「やまがた木育」の考え方を普及していくため、木育講演会やワークショップを開催							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：平成30年度は、やまがた木育推進方針（平成30年3月策定）策定した初年度であり、県が直接実施することが「やまがた木育」の考え方を浸透させるには効果的であるため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	やまがた木育推進委員会の開催	0	429					
	子どもの成長に合わせたやまがたの木育の推進		3,091					
	県民みんなでやまがた木育の推進		471					
	計	0	3,991	0	0	0		
	財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金						
	繰入金	0	3,991					
	その他特定財源							
	一般財源							
	計	0	3,991	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	体験会等の開催数 (木育講演会や、「木育ブック」を読み「木育クラフト」を作成する体験会など)	活動実績	回	—	7			
		当初見込み	回	—	7	—	—	—
		活動実績						
当初見込み								
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	環境学習・環境保全活動への参加者数 (H27年度149,000人)	成果実績	人	—	集計中			
		目標値	人	—	159,000	163,000	166,000	
		達成度	%	—				
関連事業	やまがた絆の森づくり推進事業、森づくりサポート体制推進事業、みどりの循環県民活動推進事業、みどり豊かな森林環境づくり推進事業（以上、みどり自然課） むらやま版・木育指導者育成推進事業（村山総合支庁森林整備課） やまがた森林ノミクス推進事業（農林水産部林業振興課）							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

やまがた木育推進方針(平成30年3月策定)には、「やまがた木育」に関する指標は示されていないため、短期アクションプラン、テーマ6、施策2の関係指標(4)の環境学習・環境保全活動への参加者数を記載している。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・平成28年度のやまがた緑環境税の評価・検証に基づく「やまがた緑環境税活用施策の今後のあり方」に沿って実施する事業であり、また、内容は豊かな森林資源を次世代に引き継ぐための意識の醸成であり、重要度が高く、また、目標水準も妥当である。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・当該事業は、「やまがた緑環境税活用事業の今後のあり方」に沿って、平成30年3月に策定された「やまがた木育推進方針」に基づいて実施している。 ・やまがた木育の体験会などを7回開催し、計画どおりの実績となり、県民へのやまがた木育への理解が図られた。 ・事業の経費については、業務実施に必要な不可欠な費用に限定しており、また、やまがた木育を通して「県民みんなで支える森づくり」の意識の醸成を図っており、緑環境税の充当は妥当である。 ・木育推進委員会の委員会から助言を得ながら、効果的に事業を実施している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・本県の豊かな森を守り、活かし、次の世代に承継する機運を全県的に醸成する事業であり県が実施すべき事業である。
今改善の課題	引き続き人材養成を行い、開発した木育教材を活用して木育の指導ができる人材を増員するとともに、指導者の能力の向上を図ることにより、さらにやまがた木育の取組みを広げていく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない